

こころ あひ

インタビュー特集

人間の身体の機能はすべてが不可欠なものだが、なかでも人間が得られる情報量の80%は目から入ってくると言われている。目の患いは患者や家族にとって精神的負担となり、日常生活に大きな影響を及ぼすことになる。和田眼科（兵庫県西宮市）の和田院長は、眼科一般診療・コンタクトレンズの処方をはじめ白内障手術など総合的な眼科診療で、眼精疲労や視力低下に悩む人々がいっまでも快適に日常生活を過ごせるよう、志の高いスタッフと共に最新の技術を取り入れた質の高い医療に取り組んでいるという。

（坂本 紀男）

和田眼科 院長 和田 佳一郎さん



（わだ かいちろう）
平成10年奈良県立医科大学卒業。同大学附属病院眼科医局入局。平成17年7月、西宮市阪神・阪急今津駅前と和田眼科を開院。開院以来の白内障手術は2000件を超える。日本眼科学会認定眼科専門医。日本眼科手術学会会員。日本白内障・眼内レンズ屈折手術学会会員。厚生労働省認定先進医療実施機関（多焦点眼内レンズを用いた白内障手術）。

プロフィール

「私自身、幼い頃に急性腎炎を患い、医師や看護師の方に大変お世話になりました。自分自身も眼科診療のプロフェッショナルとして、患者様に『よく見える様になった』と喜んでもらえたら嬉しいです」と和田佳一郎院長。

和田眼科で特に力を入れている白内障手術は、濁った水晶体を取り出し、単焦点または多焦点の眼内レンズを用いた再建術で、低侵襲の日帰り手術が中心だ。患者の職業や生活環境を考慮した治療で、早期の社会復帰とQOL（生活の質）の向上に尽力している。保険適用の単焦点眼内レンズの需要が多いが、遠近両用の多焦点眼内レンズも増加してきていると和田院長は語る。

「多焦点眼内レンズの場合、遠くだけでなく近くもはっきり見える事ができ、裸眼視力の向上はじめ老眼鏡から解放され

モットーは「心をこめたチーム医療」

るなどさまざま
まな利点があり
ります。最近
では乱視矯正
眼内レンズも
普及し、患者
様の選択肢が
広がっていま
す」

「最近、年齢や環境など病気を
引起こす原因は人それぞれ
だ。和田眼科では電子カルテや画像ファイリングなど最新鋭のコンピュータ技術により情報
をデジタル化することで、患者によりわかりやすい診断・治療を心がけている。

「病気が治って
患者様の喜ぶ顔を
見られる時が、医師として一番幸せな瞬間です」そう
和田院長の温かい
まなざしに、地域
医療を担う責任と
熱い思いが見え

ることによって
が見つかるとい
う。また、ドライアイは

和田眼科 ☎0798・39・3777
URL: <http://www.wada-eye.ecnet.jp/>